

062	ルイ・エラール、エフセレンスレギュレーター、アラン・シルベスタイン流ポップなレギュレーターが誕生
064	ポール・ウォッチ、エンジニアIIIオハイオ、話題のステンレス・スチールを採用した新作が登場
065	自社開発・製造を目指したRJスタジオがオープン 新体制下で次なるステージを目指す RJは昨年、新たなCEOを迎えて新体制となり、ブランド名もロマン・ジェロームから改められた。今秋にはスイス・ニヨン郊外に本社兼工場のRJスタジオを設立した。CEOのマルコ・テデスキ氏にお話を伺った。
074	ブライトリング、アベンジャーズ、コレクシオン 空との結びつきをさらに強化し、培ってきたイメージを強調
078	ルイ・ヴィトン、タンブルオートマティッククロノグラフダミエ・コバルトV、メゾンのシンボルを大胆に纏った、タンブル、シヨーム、ダンディ、コレクシオン、ウォッチ
079	さりげなくフランス流のダンディズムを表現
080	シャネル、コードココ&ブルミエールヴェルヴェット、オートクチュール・メゾンの個性を宿したレディース・ウォッチ
081	グッチ、グリッパ、スケートボーダーたちのコミュニティに魅せられて
082	セイコープロスベックス&セイコープレサージュ、クロノグラフの歴史にオマージュを捧げたふたつの新作
083	カシオ、Gショックフロッグマン GWF-D1000ARR、南極の海中を体験したGショックを記念して
085	新製品情報
092	2019年度ロレックス賞受賞者、より良い世界を目指す革新的なプロジェクトをロレックスが支援
094	パテックフィリップ、ジャパンサービスセンター、さらなるサービスの充実を目指して移転拡張
095	A.ランゲ&ゾーネ、ランゲ1誕生25周年アニバーサリー・コレクシオン、10作目を発表してフィナーレを迎えた記念限定モデル
096	WC、シルバー・スピットファイア世界一周飛行、北米大陸からロシアを経由し、日本に飛来した銀色の機体
098	ブランパン、オーシャンコミットメント展、海洋保全活動に関心を喚起することを目指した展覧会
099	タグ・ホイヤー、モナコ誕生50周年記念イベント、ゼニス、デファイ・インベーター、発表会
100	ヴァシロンコンスタントン 大丸心齋橋店ブティック、西日本初の直営ブティックが大丸心齋橋店にオープン
101	ハリ・ウィンストン新宿店、全国で9店舗目となるサロンが新宿に誕生
102	オメガブティック六本木ヒルズ、東京都内初の直営路面店が六本木ヒルズにオープン
103	チューダーブティック 銀座、日本国内初の路面旗艦店が銀座・並木通りにオープン
104	ブライトリングブティック 高松、新コンセプトで誕生した四国・中国地方初のブティック
105	H.モーザー&ルムト・ワールド、恵まれない子供たちに本を読む楽しさを伝えたい
106	1-1-2 インフォメーション、問い合わせリスト、次号予告

ベル&ロス ッ BR05 コレクション

創業から25年の節目に誕生した都会的なコレクション

ベル&ロスは9月にまったく新しいコレクションを発表した。BR01、02、03に続くBR05であり、従来のミリタリー・テイストを残しつつも、モダンで都会的な印象を与える。共同創業者兼クリエイティブ・ディレクターのブルーノ・ベラミツシュ氏にお話を伺った。



「BR05ゴールド」。直径40mmの18KPGケース&ブレスレットに自動巻きのBR-Cal.321(25石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約42時間)を搭載する。文字盤はサンレイ仕上げのブラックにアブライド・インデックスを備える。サファイアクリスタル・バック。10気圧防水。価格407万円。

今年9月5日、ベル&ロスは世界一斉に新しいコレクションの「BR05」を発表した。ベル&ロスにとっては3つ目の

の機能的なデザインに惹かれたことがコラボレーションのきっかけだった。

コレクションだが、いままでと異なる点は「アーバン・エクスプローラーのための計器」と位置付けたことにある。つまり従来のミリタリーではなく、「アクティヴで都会的なライフスタイル」をターゲットとしたコレクションで、都会に暮らす現代の人々に向けた「マスキュリンでパワフルな宝石」と謳っている。もちろんベル&ロスが原則とする「機能性」「視認性」「高精度」「防水性」は変わらない。

こうしてスタートしたことから、ベル&ロスもパイロットやダイバー、地雷除去の専門家という特殊な任務を負う、プロフェッショナルのための計器」を掲げてきた。ベラミツシュ氏は「プロフェッショナルが採用している、ということはベル&ロスの時計に対する信頼につながりました」と語る。

後述のように1994年に最初の時計を発表したが、それはドイツのジンの協力を得たものだった。ジンはパイロットやプロフェッショナル・ダイバー、消防士、軍の特殊部隊などの特別な任務を負う人々のための時計を柱とする、いわば特殊時計のメーカーを貫いてきた。ベル&ロスのデザイナーのブルーノ・ベラミツシュ氏がジンのパイロット・ウォッチ

創業から25年の時が流れ、ミリタリーのイメージから脱却し、より多くの人をターゲットとしたBR05が誕生した。今日の腕時計の流行のひとつであるスポーツ・タイプのブレスレット・ウォッチだが、25年のデザインの要素を融合したものでもあり、ベル&ロスの個性が集約された。

4つのスクリュウが特徴的な直径40mmのケースは円と四角を組み合わせたデザインで、10気圧の防水性能をもつ。スーパールミノバを塗布した大きなアブライ

タグ・ホイヤー ラ・シヨード・フォンとシユヴネ、ふたつの製造拠点を訪ねて

培ってきた個性こそ発展の原動力



タグ・ホイヤーは来年、創業160周年を迎える。今日、その歴史のなかで1960年代に誕生したアイコンックなモデルに敬意を込めたコレクションを展開し、それらに搭載する自社製のCar.ホイヤー02の製造にも拍車がかかる。製造拠点であるふたつの工房を取材した。

マニユファクチュールブルガリ

アイコニック・モデルの成長を期して



11月7日、ブルガリはセーニユレジエのケースとブレスレットの工房に文字盤製造を統合した。こうして2000年に始まる垂直統合はさらなる合理化が進み、時計分野の強化に拍車がかかる。セーニユレジエ、ル・サンティエ、ヌシャテルの3か所の時計製造の現場を訪れ、ブルガリ・ウォッチの現在を取材した。



自社開発・製造を目指したRJスタジオがオープン

新体制下で次なるステージに向かう

昨年初めに新CEOを迎えて、
3月のバーゼルワールドでブランド名を
ロマン・ジェロームからRJに改めると発表。
また今年1月のSIHHでは
自社開発のモジュールを搭載した新作を
お披露目するなど、RJはにわかに
勢いを見せる。9月にはスイス・ニヨン郊外に
新たな拠点となるRJスタジオも完成した。



2019年度ロレックス賞受賞者

より良い世界を目指す革新的なプロジェクトをロレックスが支援



2019年度ロレックス賞の5人の受賞者たち。(左から)グレゴワール・クルティーヌ氏、クリティ・カランズ氏、ジョアン・カンボス＝シルバ氏、ミランダ・ワン氏、ブライアン・ジッタ氏。



6月14日にアメリカ・ワシントンDCのスミソニアン・アメリカン・アート・ミュージアムで受賞者が発表された。5人が選ばれ、それぞれプロジェクト推進の費用として20万スイス・フランが贈られた。

ジョアン・カンボス＝シルバ
(36歳、ブラジル)

ブラジル人の水産、生態学者。地元の漁師たちの協力を得て、アマゾンに生息し絶滅の危機に瀕する、体長3m、体重200kgという世界最大級の淡水魚のピラルクーの保護活動を進める。またアマゾン先住民たちへの食料供給や、生活や文化の持続を図る計画を進める。



ロレックスは1976年にロレックスオイスター誕生50周年を記念して、当時の会長であったアンドレ・J・ハイニガ1氏の発案でロレックス賞を設立した。賞は「進取の気象のもと、人類の知識向上と文化遺産や環境の保護」を目的とし、当初は1回のみ予定だったという。しかし世界各国からの反響が大きくなり、その後40年以上にわたって継続されてきた。さて6月14日、アメリカ・ワシントンDCで43回目となる2019年度のロレックス賞の受賞者5名が発表された。いずれも人類がより良い生活を送り、また自然環境を保護するためのプロジェクトを推し進める人々だ。賞の選考は10名の専門家たちによる選考委員により行われ、今年度は111カ国から957人の応募があり、2月にそのなかから10名のファイナリストが選出された。今年度はソーシャルメディア・キャンペーンを通して初めてファイナリストを対象に一般投票も行われた。また10名のファイナリストがプロジェクトのプレゼンテーションを行う機会も設けられた。こうして5名の受賞者が決定した。

ロレックス賞のユニークさは成果に対して贈るのではなく、新規または現在進行しているプロジェクトの価値を評価し、それが近い将来に達成することを支援する点にある。受賞者には賞金が贈られるが、それはプロジェクト推進のための費用として活用することが前提だ。ところで今年、ロレックスは「パーペチュアル・プラネット」キャンペーンをスタートした。ロレックス賞はこの一環でもある。これは自然環境の保護を目的に、気象変動の影響を研究するナショナル・ジオグラフィック協会と、海洋保護活動を進める海洋学者のシルヴィア・アール博士が主宰するミッション・ブルーのプロジェクトを支援している。ロレックスとナショナル・ジオグラフィックは1950年代初期から協力関係にあり、当初は人類未踏の地の探検に力が注がれた。しかし今日では両者にとって地球環境の保護が最重要課題であり、地球の永續を願うキャンペーンの理念の下、ロレックスは環境変動の解決策を見出す上で重要な役割を果たす個人や団体の支援に注力する

(T・K)

ワールド・ムック1213
WORLD WRIST WATCH

KESAHARU IMAI
Publisher

TOMOKO KAYAMA
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA
Production Director

HIROSHI SASAGAWA
Circulation Manager

DTP
BASE

Correspondent
Washington, D.C. Bureau
(Pictorial Press International)
Mikako Burks

Cover Photo/
Takenori Aoki (WPP)

●本誌に掲載されている価格は
令和元年11月30日現在の調べによるものです。
本文中の価格は消費税(10%)込みの総額表示
です。
© WORLD RHOTO PRESS 2020

この30年の間に時計をめぐる世界は大きく変わりましたが、
小誌が継続できたのは、応援してくださる読者の皆さま、
また協力してくださる国内外の時計ブランドのご愛顧のおかげと感謝しています。
2020年はジュネーブとバーゼルで開催される
新作フェアの形態もかわり、また新たな変化が予想されます。
小誌では年間を通じて、新作の話題を取り上げるとともに
2000年前後のグループ統合が進む以前の
1990年代の時計業界をさまざまな角度から振り返る
企画を予定しています。どうぞお楽しみに。

「世界の腕時計」第143号は2020年3月6日発売予定です。

『世界の腕時計』は 1990年2月に 創刊号が発行されました。 2020年には 30周年を迎えます。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,704円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

フリーダイヤル 富士山 富士山

- お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**
- インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>
- 携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoudedokei>
- QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター
パソコンサイト:<http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合: cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス ホームページ <http://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1213

世界の腕時計

No.142

令和2年1月15日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部……………☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部…☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部……………☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。